

# 山形でファンクラ協が総会

日本プロオーケストラファンクラブ協議会 (JOFCC) の第2回総会が23日、山形市内のホテルで開かれた。札幌交響楽団 (札幌) のファンクラブ「札幌くらぶ」をはじめ、全国各地から7団体が集結。地域とともに歩むオーケストラと支援のあり方などについて情報交換し、交流を深めた。(川島博行)

# 地域と歩む オーケストラ



日本プロオーケストラファンクラブ協議会山形大会懇親会

山形に結集した全国各地のファンクラブ会員。今後も交流を重ねていく

同協議会は二〇〇六年十月、札幌くらぶ、仙台フィルハーモニークラブ (SPC)、山形交響楽団の山響フアンクラブ、群馬交響楽団の群響フアンズ、広島交響楽団の広響フレンスの五団体が札幌に集まり、設立総会を開催。総会は毎年一回、各団体が持ち回りで開き、現地のオーケストラの演奏会も楽しむ。昨年九月の仙台での第二回は名古屋フィルハーモニー交響楽団の飯森範親、山響音楽監督が講演し、「音楽やオーケストラの心を持って接することで

山形での第二回は、オーケストラ・アンサンブル金沢を中心に支援する石川県立音楽堂楽友会も加わり、七団体に。札幌くらぶの十人を含め、各地から約八十人が出席した。はじめに、札幌くらぶ会長の上田文雄JOFCC会長が「自分たちのオーケストラを大事にし、力強く支援していく」とあいさつ。飯森範親、山響音楽監督が講演し、「音楽やオーケストラの心を持って接することで

新設が課題。SPCは「会報で新ホールの必要性を啓発する連載をしている」、群響フアンズは「二九二一年開館の群馬音楽センターは不向きになっており、新ホール建設運動の進め方を考えている」と説明した。団体によって活動に濃淡はある。名フィルファンクラブは活動が停滞した時期があり、「二、三年ぶりにクラブ通信を今年発刊できた。今後も季刊誌として出ていく」。広響フレンスは「活動への援助金がなく

## 7団体が情報交換し交流

お客さんを広げていくことができる」と述べた。各団体が活動状況を報告し、札幌くらぶは武藤義典事務局長が札幌くらぶコンサートの来年八月の復活開催、楽譜購入費の支援などを説明。ほかに、「終演後に聴衆同士がカフェに集まる茶話会が好評 (SPC)、群響との合同公演が行われ、ファンにとってもうれしい」と石川県立音楽堂楽友会などの報告があった。また、プロオーケストラのある国内の都市の中で、人口は山形市が約二十五万人と最も少なく、山響フアンクラブは「楽団員と聴衆、クラブの距離が最も近い」と強調した。地域によっては演奏会場

なり、現在は総会・交流会が主体」と報告した。続く懇親会は、山響の楽団員約二十人も参加。楽団員が金鐘五重奏やフルート四重奏を披露する中、飲食しながら親睦を深めた。全員で記念撮影もし、一体感を確認し合った。これに先立ち、一行は山形テルサホールで山響の定期演奏会を聴いた。飯森の指揮、神尾真由子のバイオリン独奏でベートーベンの「バイオリン協奏曲」シエタマンの「交響曲第三番」など。神尾は来年三月の札幌の定期演奏会でフランスの「バイオリン協奏曲」を披露し、飯森は同八月の札幌くらぶコンサートで指揮をする。

## 曲目解説、合同演奏…ファンとともに

札幌と同様、各オーケストラは地域密着に取り組む、意欲的な演奏活動も続けている。二〇〇七年に山形交響楽団の音楽監督になった飯森範親は常任指揮者の時から、演奏会の前に曲目解説などのアトラク、終了後にホワイエでファンとの交流会を開いている。

### 山形交響楽団、仙台フィル

かけて、「アマテラスの旅」と題してモーツァルトの交響曲全曲演奏会にも挑んでいる。ライブ収録のCD全集も目指し、今回の定期演奏会会場で第一弾が発売された。隣県にある仙台フィルハーモニー管弦楽団も奮闘している。今月二十四日に仙台市内で開いた特別演奏会

「オーケストラVSブラッス1-2」。第二部は公募のブラッス奏者と合同演奏。第二部は仙台フィル単独のステージだが、レスピーキの交響詩「ロマンの松」では公募の中学高校生六人が客席から演奏に加わった。

この後、指揮者の山下史は「仙台フィルは仙台の皆さんとともに歩んでいきたい」とあいさつ。最後のストザの行進曲「昇天旗よ永遠なれ」では、楽器を持ってきた聴衆がステージ下や客席通路に集まって演奏に参加した。子供から大人までがトランペットやフルートなどを懸命に奏で、他の聴衆はリズム良く手拍子。会場は一体となり、大いに盛り上がった。

山形交響楽団定期演奏会の終了後、ファンと交流する飯森 (右) と神尾



アフィニス文化財団 (東京) は、長野県飯田市で続けてきた「アフィニス夏の音楽祭」が今年で二十回の節目を迎えたのを機に、来年からプロオーケストラのある地方都市での開催を決めた。来年は広島、再来年は山形が会場となる。この音楽祭は国内のプロオーケストラの楽団員を対象に、交流とレベル向上の機会を提供する目的。国内外の一流の演奏家を講師

### アフィニス夏の音楽祭

## 広島と山形で 来年から交互に

に引き、室内楽アンサンブルを中心にセミナーと演奏会を行う。JOFCCの総会と懇親会に来賓で出席した推名慎一専務理事によると、施設面や音楽祭が行われていない点などを考慮し、広島と山形を選んだ。両市で毎年交互に開催していく。広島交響楽団と山形交響楽団がホストオーケストラとなり、音楽祭メンバーとの合同演奏など、「新しい形で続けていきたい」(推名専務理事)という。

## 芸能

今月二十三日の定期演奏会のアトラクでも、ホルンやトランペットに加え、トロンボーンも作曲当時の仕様の時代楽器を使うことを説明し、楽団員が現代楽器と吹き比べて音の違いを披露した。交流会ではファンが囲む中、飯森とソリストの神尾真由子が間近でインタビュに答えた。定期演奏会とは別に〇七年から年に三回、約八年を